

## (4) 大規模な集合住宅

⇒個人利用のみで使用し、複数台確保することで利便性を高める。

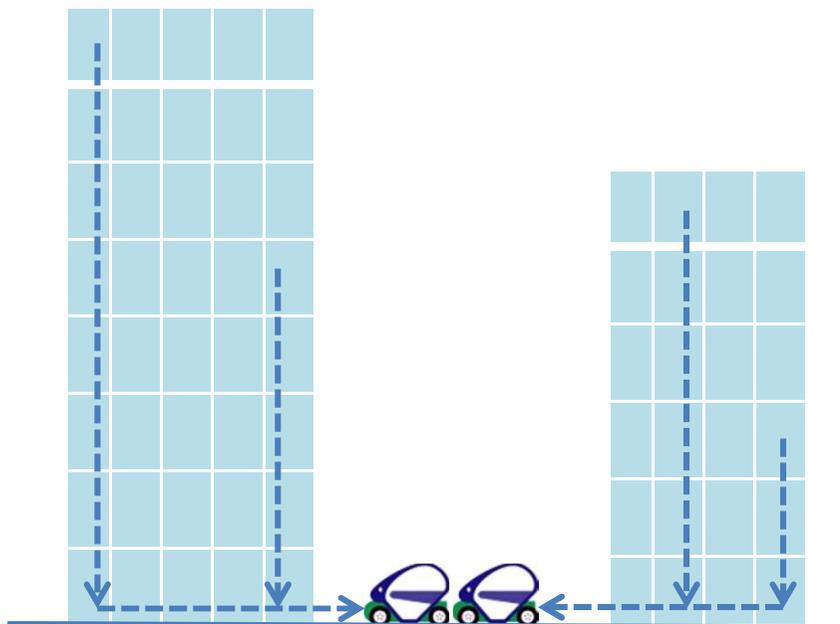
〔前提条件〕

○利用世帯数: 400世帯

○利用目的: 買い物等の個人利用のみ

○利用料金: 個人利用希望者(利用世帯のうち28%)から月1,000円を徴収する。

〔導入イメージ〕



〔導入可能台数の算定〕

収入(1か月あたり)

個人利用分: 112,000円



**最大で2台の導入が可能**  
(1台あたり51,000円の経費が必要)

共同住宅の駐車場に駐車すれば、車庫までの距離は短く、利便性は高い。利用意向(需要)により導入台数を決定する。

# V 実験結果のまとめ

# V 実験結果まとめ

## (1) 評価

### ①車両の基本的な性能は高評価

- ・車両の「操作性」や「動力性能」に関する評価は高い。
- ・日頃利用している車両と比較して「狭い道路で便利」という回答も多い。

### ②様々な地域活動に活用

- ・「防犯パトロール」、「こどもの見守り」の活用が約9割。
- ・「回覧物の配布」、「国勢調査の訪問」、「独り暮らし高齢者訪問」などにも活用。

### ③予約システム、鍵受取システムは高評価

- ・予約システムは使用者の約7割が、鍵受取システムは約9割が便利と評価。

## (2) 課題

### ① 共同利用の課題

- ・ “車両の駐車場所が遠い”、“車両を利用したい時に利用できない”という意見があり、利用者のニーズを踏まえて、共同利用のエリアや使用する車両台数を設定する必要がある。

### ② 事業採算性の課題

- ・ 一定規模以上の町内会等であれば、理論上、採算は成立。
- ・ 本格実施に当たっては、町内会等の費用負担が課題と考えられ、特に、規模の小さな町内会等においては、採算の確保が困難と思われる。
- ・ このため、今後、利用率向上のための活用方策の検討、広告による収入や本市の支援などによる採算確保策の検討が必要。

# VI 本格運用に向けて (これまでの総括)

—平成25年度から平成27年度までの取組の総括—

## (1)「想定される効果」は概ね想定どおり

### 【想定される効果】→1～4の効果を確認

(効果1)高齢者や子育て世代の外出支援による地域経済の活性化

(効果2)マイカー利用の抑制による環境負荷の低減

(効果3)買物支援などのボランティア活動による地域コミュニティの活性化

(効果4)地域の見守り活動への活用による犯罪の起こりにくいまちづくりに  
貢献

(効果5)公共交通機関の端末交通として活用することで、公共交通の利便  
性向上(※)

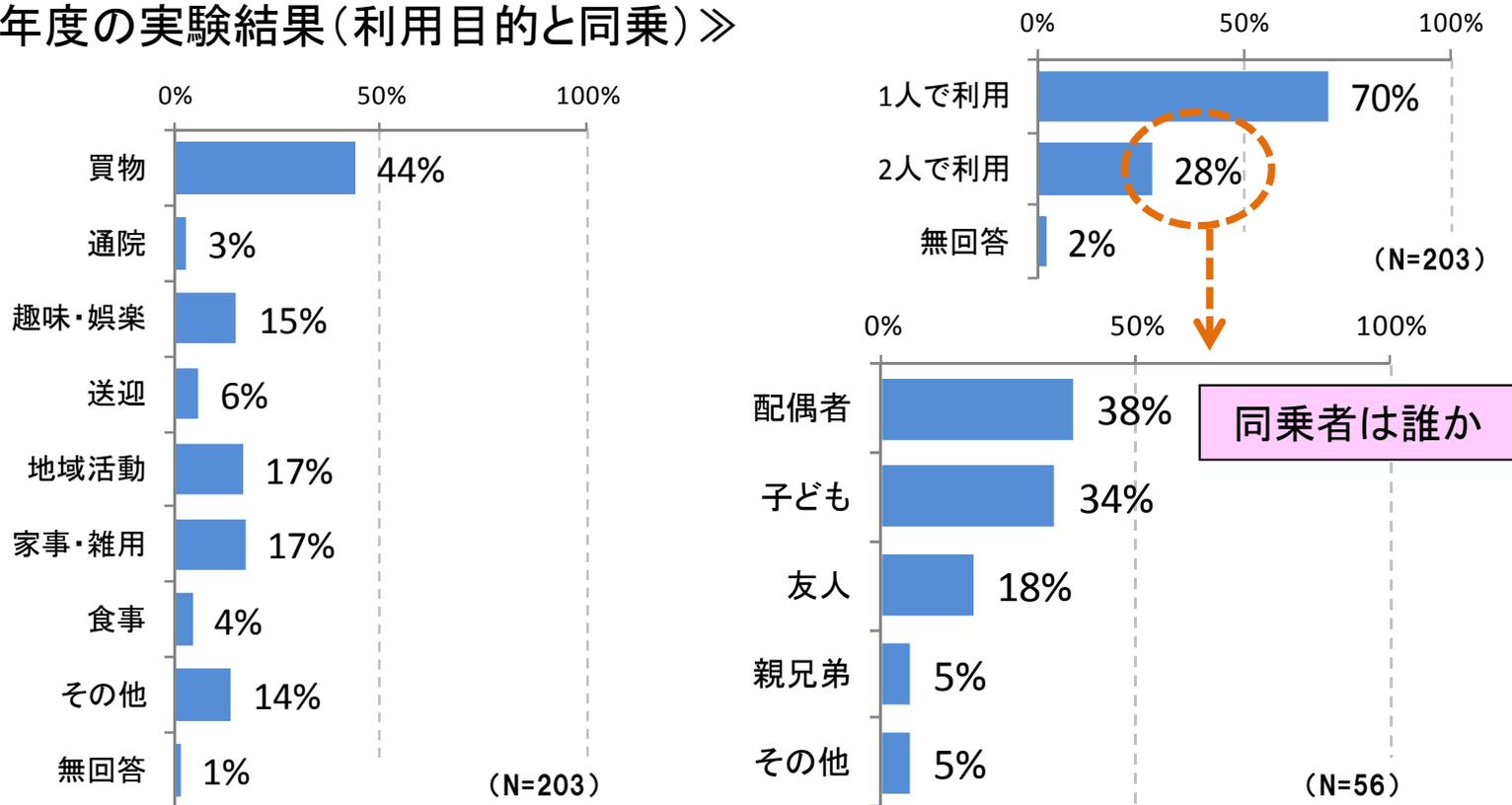
※(効果5)について、「公共交通機関の端末手段としての活用」は、期待は高いものの、昨年度の実験結果において実際の利用は低調であり、公共交通の利便性向上に係る効果は確認できなかった。

→理由としては、通勤・通学以外で日常的に公共交通機関を利用する人が少ないためと想定される。

# (効果1) 高齢者や子育て世代の外出支援による地域経済の活性化

- ☞ 日常生活において、「買物」や「地域活動」、「家事・雑用」など幅広い用途で短距離、短区間の移動に活用され、エリアが広大で高低差のある西風新都特有の地形や狭隘な道路に適合することが確認できた。
- ☞ 若い世代では子どもの送迎、高齢者には地域活動など幅広い年代に応じた利用がなされ、域内の活発化が期待できる。

《昨年度の実験結果(利用目的と同乗)》

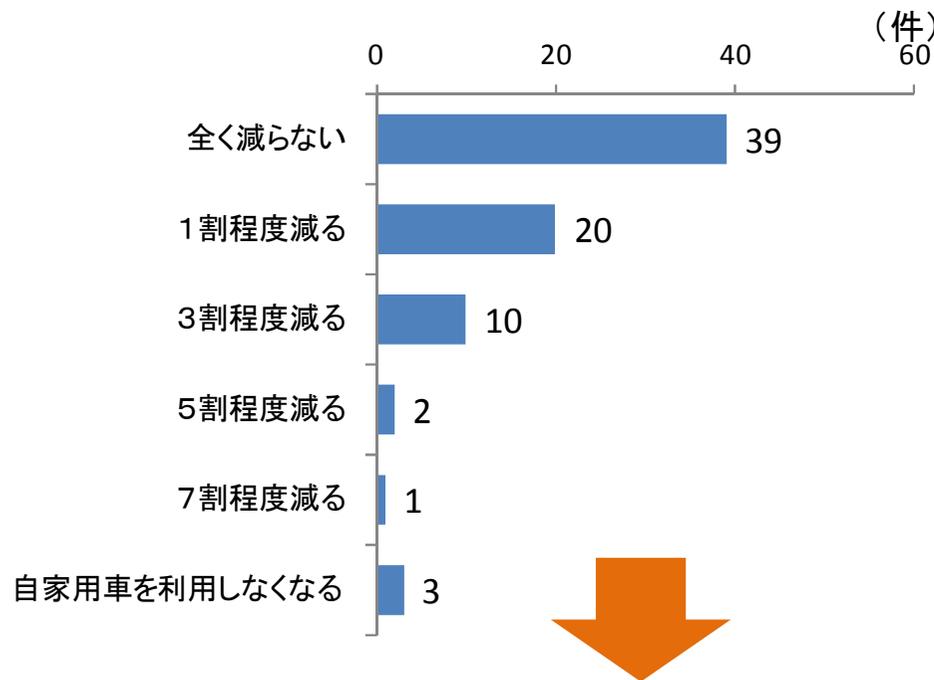


## (効果2)マイカー利用の抑制による環境負荷の低減

- ☞ 超小型モビリティが普及した場合、約1割強の自家用車の利用削減が見込まれる。
- ☞ よって、同様に環境負荷が低減も期待できる。

### 《モニター調査結果より》

超小型モビリティが普及した場合、あなたの世帯では自家用車の利用がどのくらい減ると思いますか。



削減割合の平均: **12.9%**

### ＜参考(試算)＞

本市の平成24年二酸化炭素(CO2)排出量: **871.2万トン**

うち自動車: **143.6万トン**

うち自家用車: **80.4万トン**

〔本市の自動車からの排出量143.6万トン×自家用車構成比56%  
※自家用車構成比は我が国全体(平成25年)における自動車排出量による車種構成比から設定〕

この12.9%が削減すると仮定すると

→ **全市で10.4万トン削減**

※全排出量の1.2%に該当

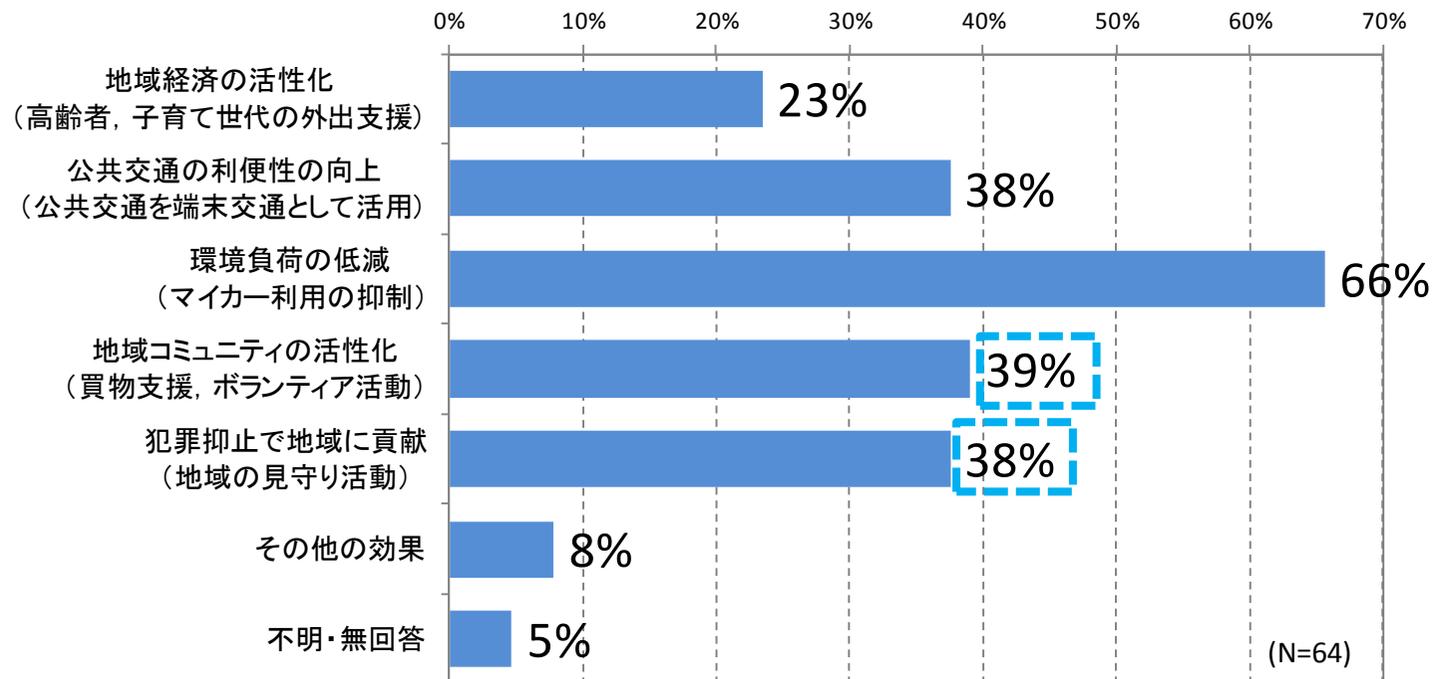
**西風新都(4,570ha)の2.6倍の面積の杉林のCO2吸収量に相当**

※杉は40年生のもので算定

# (効果3)買物支援などのボランティア活動による地域 コミュニティの活性化

- ☞ 買物支援やボランティア活動、見守り活動など地域活動への期待が大きい。
- ☞ 後部座席に人やものを乗せられるように車両の改良を行えば、買物支援や病院への送り迎えなど更なる活用が期待できる。

《超小型モビリティ活用に期待できる効果(昨年度の実験結果)》



《車両の改良に関するモニターからの意見》

- ・ 後部座席を席じゃなく物を乗せられるようにして買い物をしやすくしたら良い。
- ・ 後部座席を広くし、乗り降りしやすくすれば、介助が必要な方を乗せやすくなる。

## (効果4)地域の見守り活動への活用による犯罪の起こりにくいまちづくりに貢献

☞青色回転灯の設置要望があり設置できるようにしたところ、多数活用された。

### 《モニターからの意見》

- ・小回りがきき、形状が目立つため、安全見守り等には効果があった。
- ・夜間防犯見回り活動に効果(音が出ない)。短距離移動がバイク感覚で簡単にかけられた。
- ・交通安全マークをつけての走行は「交通安全」の喚起になるのでよかった。

